

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	環境バリアフリー小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	主 査 名：岩田 三千子 就任年月：2015 年 4 月
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開の見学会などを企画して、設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握する。</li> <li>・ 委員の持つそれぞれの分野の研究成果について、委員会を 4 回開催して情報交換を行うとともに、HP 上において成果を発信する。</li> <li>・ 今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行う。また、それらの成果について、委員会や見学会を企画して継続的に情報交換を行い、知見を広める。</li> <li>・ 大会のオーガナイズドセッションにて、建築環境工学的視点のバリアフリーをテーマとしたセッションを開催し、この分野の議論を深める。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：岩田三千子 (摂南大学) 幹事：安部信行 (八戸工業大学)、延原理恵 (京都教育大学) 委員：土川忠浩 (兵庫県立大学)、堀越哲美 (愛知産業大学)、土田義郎 (金沢工業大学)、村上泰浩 (崇城大学)、二井るり子 (有限会社プラネットワーク)、田中直人 (島根大学)、宮本雅子 (滋賀県立大学)、三上功生 (日本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2016 年度予算	171,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2016 年度大会において「環境バリアフリー」のオーガナイズドセッションを設け、活発な議論を交わすことができた。 2. 委員の持つ各々の研究成果について、情報発信源となっている委員会のホームページコンテンツは 1 名につき 6 件程度、合計 60 件程度の多くのコンテンツが集まり、内容が充実してきている。 3. コンテンツの数から、出版やさらなる情報発信の整備を行うために、次年度に WG を設置することを検討し、すでに準備会などの活動を始めている。
委員会活動の問題点・課題	1. 大学教員は本務ほか多用であり、委員会開催の日程調整が困難になっている

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<p>本小委員会は、法律、条例、要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握することに関して、委員会内ではアカデミックスタンダードなどのルール・指標づくりを目標として活動を進めている。</p> <p>本建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザインに関する研究者とも連携し、情報交換を行って、今後の研究活動についての目標設定を明確にしなが、メンバー各自がさらなる研究活動を行うことが目的の一つである。</p> <p>2016年度は特に、小委員会のホームページに、各委員の研究成果を分かりやすい形で情報発信する活動を行っており、昨年度から引き続き内容をさらに充実させた。ホームページでは、光、音、温熱、空気環境など、環境バリアフリーに関する情報提供の場として、「知っ得！環境バリアフリー」と題して研究成果を外部へ発信するコンテンツを整備している。各委員が6件程度を持ち寄り、合計約60件の環境バリアフリーに関する身のまわりの生活に役立つ情報を提供している。</p> <p>これらの内容が非常に充実してきたことから、出版や利用しやすいホームページを作成することを目的として、出版検討WGとホームページWGを設置することを検討し、それぞれの準備会を開催した。</p> <p>2016年度大会では、環境バリアフリーのオーガナイズドセッションを設けた。光、温熱環境の基礎的な実験成果や、観光に関わる環境バリアフリー関連の発表があり、活発な議論を交わすことができた。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。